エネルギー貧困解決のための未来フォーラム
～気候変動対策と福祉の連携をめざして～

日本でのエネルギー貧困をどう考えるか

古賀 勇人（こが はやと）
大阪大学 大学院人間科学研究科 講師
koga.hayato.hus@osaka-u.ac.jp

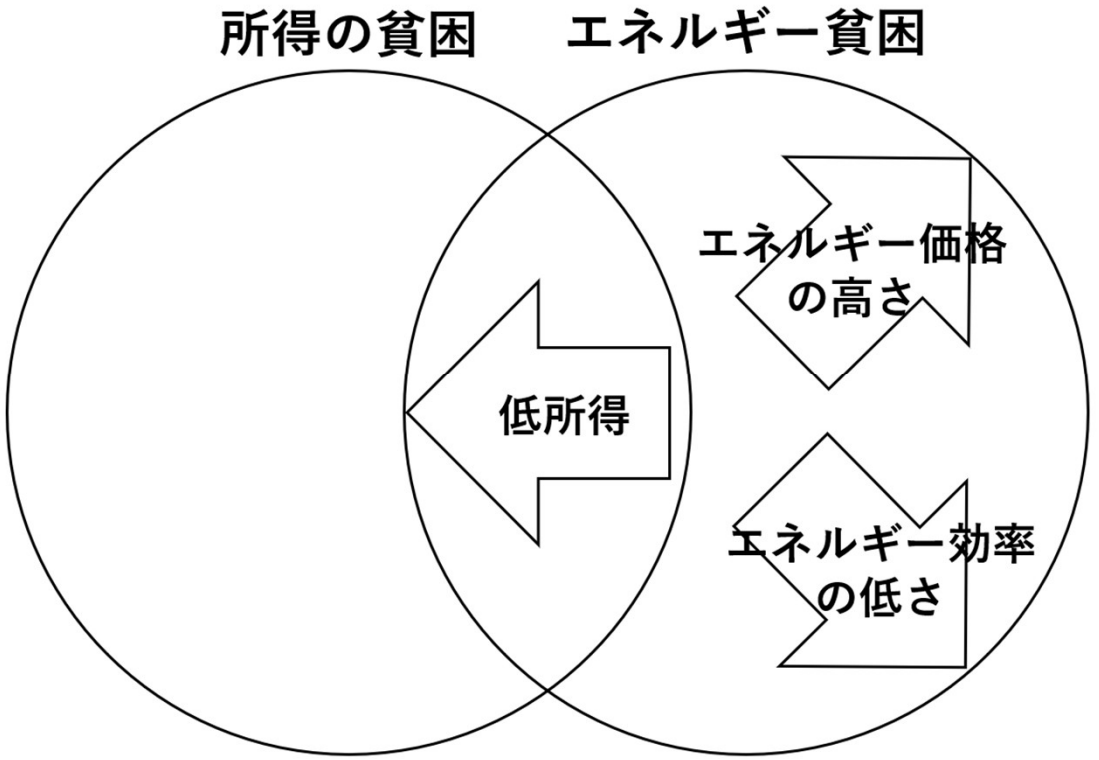
なぜ「エネルギー貧困」という考え方が重要か

- 「所得の貧困」という考え方だけでは捉えることのできない困窮の要因や対策を考えられるから

- エネルギー価格
  - 恒常的に高い
  - 急激な高騰

- エネルギー効率
  - 住宅の断熱・気密性能が悪い
  - 再エネや蓄電池などを使えない

- ただし、
  - そのほかの要因も考えるべき



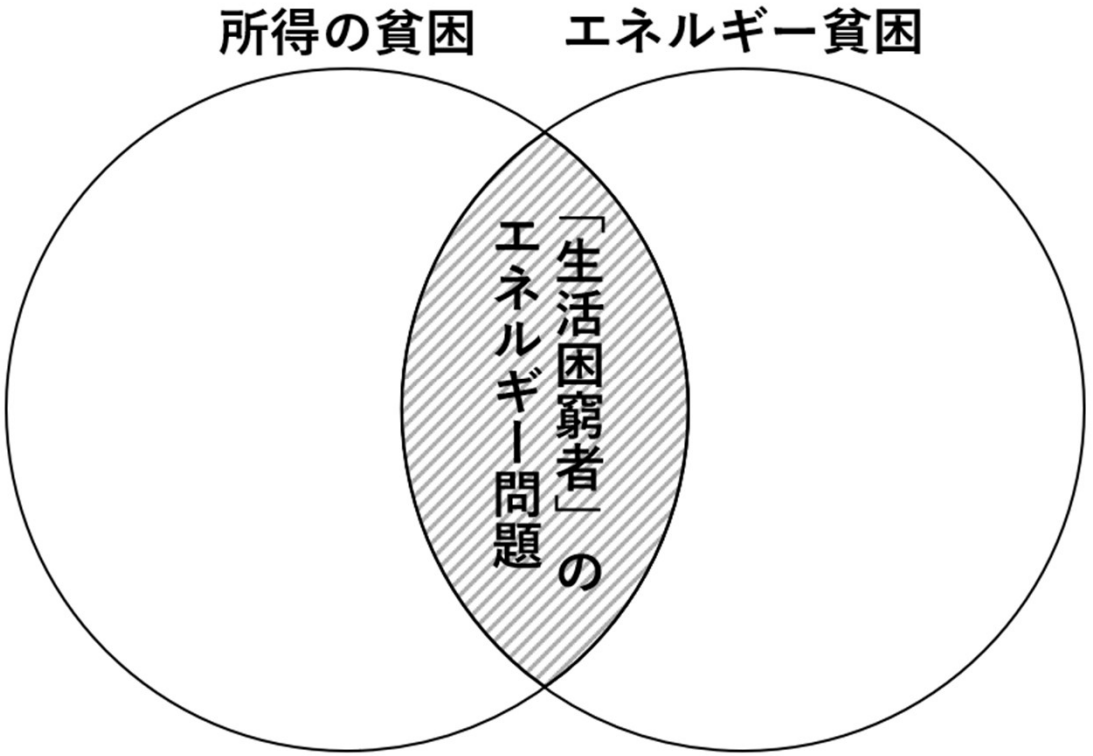
エネルギー利用をめぐる困窮は日本ではどうとらえられてきたか

- エネルギーをめぐる困窮への対策は、日本でもないわけではない
  - 生活保護の冬季加算
  - 北日本の自治体での福祉灯油

  ⇒**社会保障システムの課題**として制度化

- しかし、
- **「生活困窮者」のエネルギー問題**という捉え方で対処されるのは

  エネルギー貧困の一部の要因だけ
  - 対処されている要因についても十分な水準ではないことが多い



冬の現場

- 冬のエネルギー貧困に対処する制度は部分的にあるが**不十分**
  1. 既存の社会保障制度での対応は
     - **対象者が限定的**：生活保護世帯以外にも、年金世帯やひとり親世帯、若者など
     - **支援の水準が低い**：生活保護の水準の低さ、捕捉率の低さ、水際作戦など
       - 多くの人は「**我慢**」してやり過ごしている。
     - **所得以外への支援が限定的**：断熱性能の改善や省エネ設備購入支援は誰のためか？
  2. どれくらいのエネルギーが**必要**なのかが不明確
     - 断熱性能の最低基準やエネルギー費用の基準など
     - 対応策が緊急時のみの場当たり的なものになる
  3. 当事者や社会一般においても問題だと捉えられづらい
     - 誇るべき「**節約**」「**経済**」だと捉えている人もいる
     - **現状肯定**：「もっと辛い人がいる」「生活保護をもらえているだけありがたい」
     - **変えられる・変えるべき状況だという認識が薄い**

夏の現場

- 夏のエネルギー貧困に対処する制度が**そもそもない**
  - 生活保護には夏季の加算がない/エアコンを買うのも困難
  - 関連する制度的な対応は、熱中症対策
  - 実際の内容は
    - 熱中症（特別）警戒アラート
    - クーリングシェルターの開設
  - これらは、**個人の行動変容の問題**として、熱中症対策を考えている

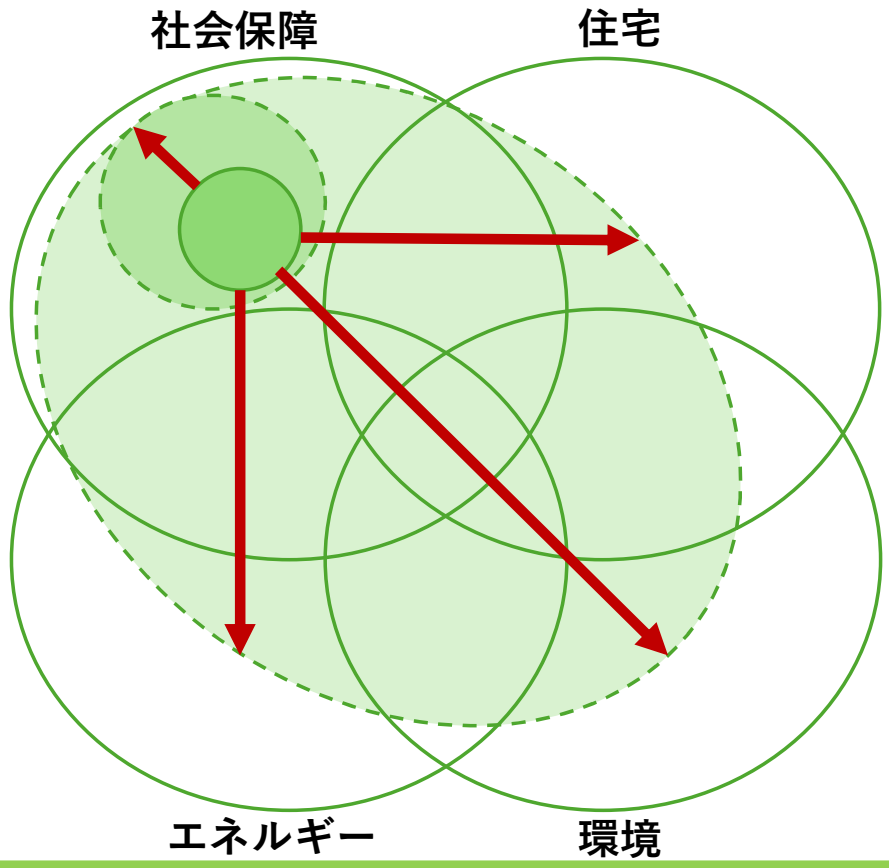
- しかし現場では、
  - 熱中症の危険性は理解しているが「**使えない・使わない**」
    - 効きの悪いエアコンを使うくらいなら我慢する。
    - 一日に何回も水を浴びる
    - 高齢や病気などにより、クーリングシェルターにはいくことができない

日本においてどうするか

- 1. 領域横断的な対策が必要
  - エネルギー貧困という概念の価値は
  - 所得の貧困と同じではない点にあるが
  - 所得の貧困と完全に分けてはならない

- 2. ボトムアップでの問題化・制度化
  - エネルギー貧困という言葉を使わずとも
  - **部分的に対処する実践は既に多くある**
    - 困窮者支援、医療・介護の訪問など
  - これらの取り組みの経験や知識を共有し
  - エネルギー貧困として問題を整理し
  - より包括的な対応策を考える必要がある
    - 「未来フォーラム」の役割！

エネルギー貧困対策・対応の制度化戦略



宣伝です

地平社

「地」球と「平」和を考える出版社

https://chiheisha.co.jp/
info@chiheisha.co.jp

株式会社 地平社

〒101-0051 東京都千代田区
神田神保町1-32 白石ビル2階

TEL 03-6260-5480　　FAX 03-6260-5482

地平社 公式サイト　　Web地平

地平社ブックレット

2026年12月下旬刊行予定

エネルギー貧困

― 暮らしのエネルギー保障に向けて

古賀勇人

予定価格　税込1100円

家計の圧迫なしにはエネルギーが使えない

冷房を控え、暖房を我慢する。その暮らしは「節約」なのか。
見えにくいエネルギー貧困の実態と、解決への道を探る。

目次

まえがき
第1章　エネルギー貧困とは何か
第2章　なぜ見えにくいのか、なにが問題か
第3章　どのように対処しうるか――諸外国の経験に学ぶ
第4章　何が求められるか
あとがき――「暮らしのエネルギー保障」に向けて

著者略歴

古賀勇人　こが・はやと

大阪大学大学院人間科学研究科講師。2025年、マンチェスター大学地理学科博士課程修了。PhD（Human Geography）。専門は人文地理学、エネルギー地理学、ポリティカル・エコロジー。

ご清聴ありがとうございました。